

1

女性の人権／男女共同参画

「何にでもなれるよ！」

1 対象

小学校1年生～3年生

2 ねらい

固定的な性別による役割分担意識にとらわれず、自分の夢に向かって生きている人々のことを知り、将来の自分の仕事を思い描くことができるようにすること。また、一人ひとりの多様な生き方を認め合うことができるようにすること。

3 準備するもの

- 固定的な性別による役割分担意識にとらわれないで仕事を選び活躍する男女の写真（黒板掲示用）
- 将来やりたい仕事（つきたい職業）を書くカード ※A4 半分白紙（各自への配付用）
- ワークシート

4 解説

低学年の児童に、「大きくなったらどんな仕事がしたい？」と尋ねても選択の幅がまだ狭い。保護者をはじめとする家族の仕事、保育園や幼稚園の先生のような今まで関わったことのある人の仕事、テレビドラマや漫画をとおして知った仕事などから選ぶ場合が多い。そして、これらの仕事は、まだ、固定的な性別役割分担意識にとらわれているものが多いため、児童が選んでいる仕事にもその影響が大きい。学年に関わらず、女子は「パティシエ」「花屋」のように、生活感のあるものが多いのに比べ、男子はスポーツ選手など夢やあこがれに結びつくものが多い。まだジェンダー（性差）に比較的にとらわれていないこの時期に、固定的な性別による役割分担意識にとらわれず、様々な職業についている人を知ることにより、児童の選択肢の幅を広げるとともに、「将来はこんな仕事をしてみたい」という労働観や勤労意欲も育てていきたい。

5 進め方（展開例） 45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	<p>◆学習の確認（3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（7分）</p> <p>「よいところをほめよう」</p> <ol style="list-style-type: none"> ①2人組のペアをつくり、じゃんけんをする。 ②はじめに勝った人が負けた人のよい所を伝え、次に負けた人が勝った人のよい所を伝える。 ③最後に、「ありがとう」とお互いに伝えあい、握手をする。 ④相手を代えて、2人組のペアを作り、同じ内容のことを繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを簡単に説明する。 〔P4「学習を進めるにあたって」の内容〕を児童に伝える。 ・ほめ合う活動が初めての場合は「元気がよい」「歌（絵）（字）が上手」「そうじを頑張っている」など、いくつか、例を板書しておく。 ・まとめをする。 	
	<p>・友だちのよさを伝えあう活動をとおして、人それぞれによさや得意なことがあることを実感する。</p>		

<p>展開 30分</p>	<p>◆アクティビティ（30分） 「何にでもなれるよ！」 ①やりたい仕事（つきたい職業）とその理由をカードに書く。 ②書いたカードは先生に黒板に貼ってもらう。 ③黒板に貼られたカード（職業）を見て、気がついたことをクラスで話し合う。 ④「男子」と「女子」に分けられたカードを入れ替えても、それぞれの職業で活躍している人がいることを確認する。 ⑤男子の仕事、女子の仕事といった区別はあるかどうかについて話し合う。 ⑥補助資料の写真を見た感想を書く。 ⑦クラスに発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを配付する。 ・何を書いてよいか困っている児童がいた場合、教員側で例を話す。 ・児童の状況を見ながら「将来なりたい職業」ランキングトップ5を紹介する。 ・児童が書いたカードを黒板に貼る（時間がかかりそうな児童は学習の途中で黒板に貼ることを認める）。 ・男女に分けて掲示したカードを部分的に入れ替えて考えさせる。 ※「男子が多い」や「女子が少ない」に類する発言があれば注目させる。 ・性差による偏りはあるものの、男女に関係なく職業は選べることを確認させる。 ・10種類程度の職業を写真で紹介し、職業にはいろいろあること、男女関係なく選べることを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カード（各自ペン） ・補助資料「将来なりたい職業」ランキングトップ5 ・ワークシート ・補助資料「さまざまな職業で活躍している人たち」
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ（5分） ①授業を受けてわかったことや思ったことを書く。 ②まとめの話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の感想や記述をもとに、ねらいを押さえ、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
<p>・「男子」「女子」に関係なく、いろいろな職業を選ぶことができることや、職業以外においても「男子だからこうあるべき」「女子だからこうすべき」などと決めつけしないで、「その人らしさ」や「その人の得意なこと」などを考えることが大切である。</p>			

<参考資料など>

- 「人権学習ワークシート集-人権教育実践のために第14集（小・中学校編）-」
神奈川県教育委員会（平成26年2月）
「小学生の『将来なりたい職業』集計結果」 日本FP協会（平成31年）

なん
何にでもなれるよ！

() 年 () 組 () 番 名前 _____

- 1 みんながえらんだ仕事（しごと）（しょくぎょう）をみて、「気がついたこと」を書きましょう。

- 2 「写真（しゃしん）を見て思ったこと（おも）」を書きましょう。

- 3 「わかったこと」や「思ったこと（おも）」を書きましょう。

「何にでもなれるよ！」

○「しょう来なりたいしよく業」ランキングトップ5（2018年度）

おとこ 男の子		おんな 女の子	
👑1	やきゅう 野球せん手	👑1	パティシエ
👑2	サッカーせん手	👑2	かんごし
👑3	いし（お医者さん）	👑3	いし（お医者さん）
👑4	ゲームをつくるひと	👑4	ほいくし（保育園の先生）
👑5	かいしゃいん 会社員	👑5	きょう 教し（学校の先生）

○さまざまなしよく業で活やくしている人たち



はなや
花屋



ほいくし
保育士



きゅうきゅうめい
救急救急命し



うんてん
バス運転し



い
医し



か
んごし



© YOKOHAMA FC

サ
ッカ－せんしゅ



パ
ティシエ



しょう
消ぼうし



すししよく人
にん

※ ほんさつし
本冊子ではパティシエ、パティシエールをまとめて、パティシエとしてあつかっています。

2

女性の人権／男女共同参画

「ちがいのちがい！」

1 対象

小学校4年生～6年生

2 ねらい

「あってもよいちがい」と「あってはいけないちがい」について考えることをとおして、社会における「あってはいけないちがい」についての解決方法や対処の仕方について自分の考えをもち、実践する意識をもたせること。

3 準備するもの

- ワークシート
- アイスブレーキングで使用する物品

4 解説

この時期の子どもたちの性役割についての認識は、それまでの職業や外見など外面的次元によるステレオタイプの理解から、女／男らしさなど性格や特性という内面的な理解へと進み、さらに性差を意識するようになってくる。そこで、自分の内面や社会におけるジェンダー・バイアスに気づき、個性は女性、男性という性によって決まるものではないことを理解する学習とともに、「社会」の状況や女性の「権利」にも目を向けた学習を設定した。この「ちがいのちがい！」は様々な場面で参加型学習として取り入れられている。ここでは、男女のちがいの具体的な問題を、それは「あってもよいちがい」（文化や個性の多様性など）なのか、それは「あってはいけないちがい」（偏見に基づいた意識、差別など）なのかに分ける活動をとおして、子どもたちに様々な気づきを促す学習とした。また、この「ちがいのちがい！」は学級で日常的にでてくる問題について発展させて考えることもできる。日常あまり深く考えたことのないことでも、こうして「あってもよいちがい」なのか「あってはいけないちがい」なのかを考えてみると、様々な人権問題につながることに気づくことができる。

5 進め方（展開例） 45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アイスブレーキング（8分）</p> <p>「〇〇の使い道」</p> <p>①教員が示した物の使い道をグループで考え、用紙に書きだす。</p> <p>②制限時間（2分間）を設けて、何通りの使い道を書けたか、クラス全体に発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを簡単に説明する。 〔P4「学習を進めるにあたって」の内容〕を生徒に伝える。 ・4人程度のグループで行う。 ・面白い使い道があったら併せて紹介する。 ・まとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物品（例） <ul style="list-style-type: none"> 新聞紙 ハンカチ ボール など ・使い道をまとめる用紙
<p>・一つの事柄についても、人によっていろいろな考え方があることを実感する。</p>			

<p>展開 30分</p>	<p>◆アクティビティ（30分） 「ちがいのちがい！」 ①日常生活の中で、「女の子なのに」、「男の子だから」といって、違いをつけられたことはないか思い出す。 ②ワークシートの①～⑥の事例について「あってもよいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」のどれにあたるかをグループで話し合い、それぞれの理由を含めて、クラス全体に発表する。 ③各グループの発表を聞き、「あってもよいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」について気づいたこと、わかったことを個人でまとめる。 ④「あってはいけないちがい」を解決する方法や対処の仕方について、グループで考え、クラス全体に発表する。 ⑤④で発表された意見をもとに、今後、自分が実践しようと思ったことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 自分とちがう人の意見にも耳を傾けるように促す。 児童の多様な意見を取り入れる雰囲気作りをする。 全グループの発表後に、グループでは気がつかなかった感想について発表させてもよい。 <p>回答（想定） ①× ②○ ③× ④× ⑤○ ⑥○</p> <p>解説 ①③決めつけられる場合は×だが、さまざまな意見が出てくることも予想される。しっかりと受け止めたい。 ④「励ます」ということから意見が出る可能性もある。まとめ方に注意したい。 ⑥事前に女子からも選ぶ必要がないか確認したほうがよかったなどの意見が出る可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級で日常的にでてくる問題についても、それが「あってもよいちがい」なのか「あってはいけないちがい」なのかを考えることができることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ（5分） ・まとめの話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業をとおして児童から出された感想や記述をもとに、ねらいを押さえ、まとめる。 	<p>・「性別にもとづく偏った意識」にとらわれず、「自分らしさを大切に生活することが大切である」ことに気づくことができるようにする。 ・「自分たちの生活をよくするために主体的に行動しよう」という意欲をもてるよう、自己決定したことが実践されているか振り返りをしていくことが大切である。</p>

<参考資料など>

「人権学習のための参加体験型学習プログラム集 第2集」 神奈川県教育委員会（平成 27 年2月）

ちがいのちがい！

()年()組()番 名前_____

- 1 これまでに、「女の子なのに」や「男の子だから」といってちがいをつけられたことがなかったか思い出して、その経験があれば書きましょう。

- 2 ①～⑥の「ちがい」について、

○…あってもよいちがい ×…あってはいけないちがい

△…どちらともいえない それぞれ記号を記入し、理由を書きましょう。

		○×△	理由
①	キャンプでグループの男子が火をたき、女子が野菜を切ると決めた。		
②	マサヤさんはカレーライスが大好きだが、ヨシコさんはあまり好きではない。		
③	グループで荷物運びをするのは、男子と決めた。		
④	泣いている男子に同じクラスの女子が「男は泣くもんじゃないよ」と言っではげました。		
⑤	ユミさんはスカートが好きだが、ユカリさんはズボンが好きだ。		
⑥	クラスの委員5人を決めようとしたら立候補した男子のみで決まった。		

- 3 みんなの話を聞いて、「あってもよいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」について気づいたこと、わかったこと、思ったことを書きましょう。

「あってもよいちがい」	「あってはいけないちがい」	「どちらともいえない」

- 4 どうすれば「あってはいけないちがい」がなくなるかグループで考えてみましょう。



- 5 今日の学習をとおして、わかったこと、あなたにできることを書きましょう。



3

女性の人権／男女共同参画

一人の人格として認め合い、高め合おう

1 対象

中学生

2 ねらい

自分の家庭や生活を振り返り、現在の生活が多くの人々によって支えられていることや、男女がお互いに理解し協力し合うことの大切さに目を向け、男女が対等な社会の構成員として活躍するための基盤として家庭の役割の重要性について認識できるようにする。

3 準備するもの

○ワークシート

4 解説

「男女共同参画社会」の実現のためには、一人ひとりの生き方や考え方を尊重し合い、お互いに協力し合うことが大切である。しかし、解消されつつあるとはいえ、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識はいまだに残り、このことが社会の対等な構成員として女性の経済的、社会的な自立を妨げている一つの要因と考えることができる。「男女共同参画社会」の実現のためには、男女が互いに独立した一人の人格として認め合い、高め合うように指導していくことが大切である。思春期を迎えた中学生の時期は、家族の一員としての自覚が十分育っておらず、保護者に対する要求ばかりが高い生徒や協力し合うことができない生徒も見られる。そこで、役割演技（ロールプレイ）をとおして家庭での協力について考える資料と、中学生の作文の2つの資料をもとに、改めて自分の家庭や生活を振り返り、現在の生活が多くの人々によって支えられていることや、男女がお互いに理解し協力し合うことの大切さに目を向け、男女が対等な社会の構成員として活躍するための基盤としての家庭の役割の重要性について考え、認識できるようにしたい。

5 進め方（展開例） 50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分） 授業の流れや留意点の説明を聞く。</p> <p>◆アイスブレイキング（8分） 「協働模写」 ①グループで一人ずつ廊下に貼られた正解の絵を10秒間見て形を覚える。 ②全員見たら、声を出さずにコミュニケーションをとって絵を描く。（2分） ③声を出して、話し合いながら絵を完成させる。（2分） ④時間で区切り、グループの作品を黒板に貼り、②の苦労した点や、③のやりやすかった点などを発表する。 ⑤正解の絵を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れを簡単に説明する。 〔P4「学習を進めるにあたって」の内容〕を生徒に伝える。 4人程度のグループで行う。 <p>・まとめをする。</p>	
	<p>・「協力することの意味」、「話し合うことの大切さ」などを体験、実感する。</p>		

<p>展開 35分</p>	<p>◆アクティビティ（35分）</p> <p>「一人の人格として認め合い、高め合おう」</p> <p>①「昨日の夕方」何をしていたか、思い出し発表する。</p> <p>②「ある日の夕方」をグループごとにロールプレイをする。</p> <p>③役割分担の理由を発表する。</p> <p>発表の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おかえりなさい」というのは、外に働きに行っていない祖母だから。 ・「だれか片付け手伝って」というのはいつもお母さんだから。 <p>④ロールプレイをした感想を発表する。</p> <p>発表の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん役のセリフが多く家事が忙しかった。 ・何も仕事をしていない人がいる。 <p>⑤資料 作文「父の洗濯」を読む。</p> <p>⑥自分たちのロールプレイと比較しながら次の点について考える。</p> <p>◎「人として平等である」ことについて、筆者はどのように考えているか。</p> <p>⑦家庭での男女平等を実現するために自分のできることを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する。 ・グループの人数に合わせて家族構成を決めて必ず一人一役は演じることや、時間があるようならセリフを付け加えてもよいことを伝える。 ・役割分担の例を事前に提示するなど、個人の家庭の状況（一人親家庭など）に配慮する。 <p>役割分担の例</p> <p>父・母・祖母・兄・自分など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考え方に添いながら、男女平等についての意識を啓発する。 ・固定的な性別役割分担意識にとらわれていないか投げかけ、見直せるよう助言する。 ・家族として役割を担うという考えに共感するよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・資料
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめの話を聞く。 <p>・ロールプレイをとおして、男女が互いに正しい理解を深め、協力することの大切さを実感する。</p> <p>・家族の一員としての自覚を持ち、積極的に家庭に関わっていることの大切さに気づく。</p> <p>・男女平等についての意識を啓発する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女が対等な社会の構成員として活躍するため、家庭での生活を見直す機会とする。 ・授業をとおして生徒から出された感想や記述をもとに、ねらいを押さえまとめる。 	

<参考資料など>

「人権学習のための参加体験型学習プログラム集 第2集」 神奈川県教育委員会（平成27年2月）
「子ども一人ひとりを大切にす男女平等教育の推進のために」 神奈川県教育委員会（平成21年）
第38回全国中学生人権作文コンテスト神奈川県大会入賞作文「父の洗濯」 横浜地方法務局（平成30年）

一人の人格として認め合い、高め合おう

()年()組()番 名前_____

- 1 昨日の帰宅後、あなたは家で何をしていましたか。

- 2 役割演技（ロールプレイ）における役割分担と決めた理由

役割	理由

- 3 役割演技（ロールプレイ）をした感想を書いてみましょう。

- 4 今日の学習をとおして、家庭での男女平等などを実現するために、自分のできることを書いてみましょう。

「ある日の夕方」

○次のセリフ文は、ある家族の夕方の会話です。グループの人と話し合いながら、セリフから登場人物を考え、役割演技（ロールプレイ）をしてみましょう。会話の続きを考えたり、セリフを付け加えても構いません。

登場人物	セリフ	役割分担
	「夕ご飯にしよう。」	
	「今日は何？」	
	「肉じゃがだよ。」	
	「えー？ また？」	
	「文句は言わないの。あなたも少しは手伝ったら。」	
＜ 夕 食 中 ＞		
	「〇〇はまだ帰ってきてないの？」	
	「遅くなるって。最近いつも〇〇で遅いんだから。」	
	「学校からのプリントを出しなさい。」	
	「はい、来月授業参観だって？」	
	「ただいま。」	
	「おかえりなさい。」	
	「授業参観の日と、会社の会議と同じ日だ。」	
	「見に来てくれる？」	
	(着替えたあとで)「ただいま、お腹減った。」	
	「はい、食べなさい。」	
	「いただきます。」	
	「今日は仕事が忙しかった。」	
	「ねえ、授業参観見に来られる？」	
	「しゃべってないで早く食べなさい。」	
	「授業参観は？」	
	「私が行こうか。」	
＜ 夕食が終わって ＞		
	「だれか、片付け手伝って。」	
	「テレビ始まったから勘弁してよ。」	
	「洗濯物は？」	
	「さっきたんでおいたよ。」	
	「ありがとう。」	
	「お風呂わかしたよ。」	

第38回 全国中学生人権作文コンテスト 神奈川県大会（優秀賞）

「父の洗濯」

「試合のユニフォーム洗濯かごに入れておいて」

なかなか洗濯物を出さないわたしに、父は言います。父は、仕事から帰ると、まず洗濯物をたたみ、それから夕食をとります。どんなに疲れていても、夕食の前には必ず洗濯物をたたみます。父は、家族みんなの洗濯物をふんわりといいにおいに仕上げてくれます。干し方も上手です。週末になると、シーツや枕カバー、タオルケットなど大きなものもどんどん洗います。天気の良い週末の我が家のベランダは洗濯物だらけになります。風に揺れる洗濯物を眺めている父は、とても満足そうです。友だちにこの話をしたところ、わたしの周りでは、父親が洗濯をしている家はありませんでした。そのほかに、掃除やゴミ出しなどほとんど母親がやっていると言うではありませんか。これには、びっくりしました。

わたしの両親は、共働きです。父の分担は洗濯のほかにゴミの仕分けとゴミ出し、掃除、犬の世話です。母の分担は、わたしと姉のお弁当作りや食事、買い物、アイロンがけ、植物の世話です。もちろんほかにもっと仕事はあるでしょうが、主にこんな感じです。

なぜ、父が洗濯と掃除で、母が食事作りなのかと聞いてみました。食事作りは、母の方が得意で小さいころから、台所でいろいろなものを作らせてもらい、これからも新しい料理に挑戦したいからだそうです。確かに、毎日台所に立ち手際よく料理を作っています。週末になると普段できない時間のかかる手の込んだ料理をうれしそうに作っています。父は、子どものころから、母親の洗濯を手伝っていたから、自分が洗濯するのは自然なことだと言います。掃除に関して、自分の部屋は自分で掃除をしていたため、苦ではないと言います。また、父は家電が好きで、カタログを眺めては、新しい物を購入し、うれしそうに家中掃除機をかけていたりします。

両親の母親は、ともに専業主婦でした。わたしが、祖父母の家に遊びに行くと、祖母は、おいしい料理をたくさん作ってくれました。片付けも祖母でした。そして、掃除や洗濯するのはいつも祖母でした。両親はわたしが生まれる前からずっと働いていました。だから、自分たちがそれぞれの家庭で見てきたことがそのままでは、うまくいかないと考えたのだそうです。結婚をして二人で暮らし始める前に、家での仕事について、話し合って決めたそうです。それは、「得意な人がする」「なるべく公平にする」というルールです。その後、兄が生まれ、姉が生まれ、わたしが生まれたそのたびに、話し合いを重ね、家での仕事を分担してきたそうです。

そんな両親の姿を見てきているため、わたしたちきょうだいは、家のことをできる人がやるのが当たり前だと思っています。もちろん、父が仕事で遅いときには、母が洗濯たくをします。反対に、母が仕事で遅いときは、父が食事を作ります。わたしたちきょうだいも、できるときは、それぞれが家のことをします。二人は、一度もけんかをしたことがなく、互いに尊重しています。

また、子育てにおいても、「男だから…」 「女だから…」などと決して言いません。わたしは、兄とは八歳、姉とは五歳はなも離れていますが、小さいころから「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」ではなく、名前で呼ぶようにと教えられてきました。「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」では、年上だからしっかりしなさい。妹だからと言うことを聞かなくてはいけない。両親はこの言葉にそんなイメージを持っていて、とても嫌いやだったそうです。たぶん、自分が子どものころ、きょうだい関係で理不尽な思いをたくさんしてきたのだと思います。だから、わたしも女だから、妹だからと嫌いやな思いはしたことがありません。

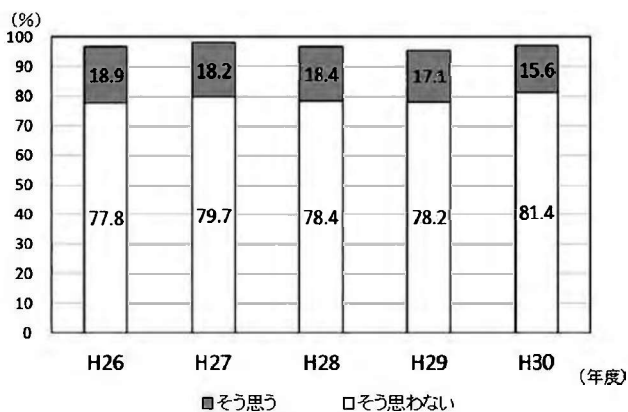
わたしは、十五年間、この家庭で過ごしてきて、男女の差異を感じたことがありません。しかし、祖父母の家や友だちの家では、そうではありませんでした。同じ一つの家で暮らしているのに、女性ばかりに負担がかかっています。家での暮らしは、みんなのものです。みんなで分担して、みんなが笑顔で楽しく暮らせば最高です。これから、高校、大学と進んでいったとき、わたしの周りでは、男女の差異はどうなっているのでしょうか。わたしは両親に、人は平等であると、普段の生活を通して教えられてきたのだと思います。

わたしの両親は、平等であるから毎日生き生きと暮らしているのだと思います。みんなが、平等な関係を保ち、個性を伸ばし、生き生きと暮らせる家庭や社会になってほしいです。そのためには、男女の性差にとらわれない考えを持ち続けていきたいと思っています。

2019年版神奈川県の男女共同参画年次報告書より

県の調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という意識に対して、《そう思わない》は81.4%となり、前年度より3.2ポイント増加しています。

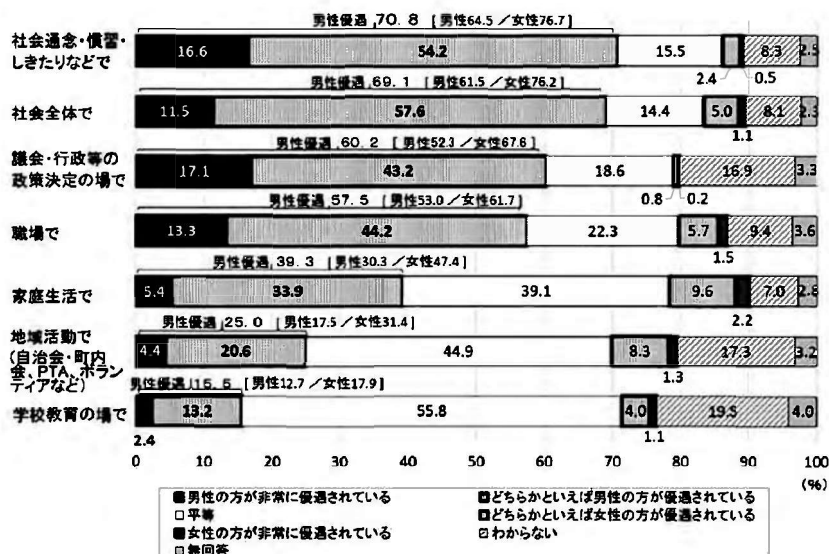
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという意識



県民ニーズ調査（基本）より作成

「社会通念・慣習・しきたりなどで」や「社会全体で」では、《男性の方が優遇されている》が7割と、《女性の方が優遇されている》を大きく上回っています。

男女の地位の平等感



神奈川県では、男女平等の実現に向けた様々な取組を着実に進めてきましたが、男女間の不平等を感じる人は依然として多く、なお一層の努力が必要となっています。女性と男性が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、学校においては「男だから」「女だから」と性別による固定観念をとりのぞき、男女平等観の形成を促進する教育・学習を充実させていくことが重要です。

デートDVってなんだろう？

コラム①

デートDVってなんだろう？

「DV」とは、英語の「domestic violence（ドメスティック・バイオレンス）」を略したもので、夫婦や恋人などの親密な間柄で行われる暴力のことです。

その中でも交際相手（恋人）からふるわれる暴力を「デートDV」と言います。



これも・・・デートDV？

「なぐる・ける」だけがデートDVではありません。強い束縛で恐怖心を与えたり、心を傷つけることなども暴力にあたります。

精神的な暴力

例えば、こんなこと…

- ◆大声でどなられる
- ◆バカにされる
- ◆無視される
- ◆不機嫌な態度をとられる
- ◆命令される
- ◆友だち関係を制限される
- ◆行動を制限される
- ◆スマートフォンをチェックされる

身体的な暴力

例えば、こんなこと…

- ◆なぐられる・たたかれる・けられる
- ◆腕をつかまれる・ひねられる
- ◆髪などを引っ張られる
- ◆物を投げつけられる
- ◆ナイフなどの危険な物をつきつけられる

経済的な暴力

例えば、こんなこと…

- ◆いつもお金を払わせられる
- ◆お金を貸せと言われる
- ◆貸したお金を返してくれない

性的な暴力

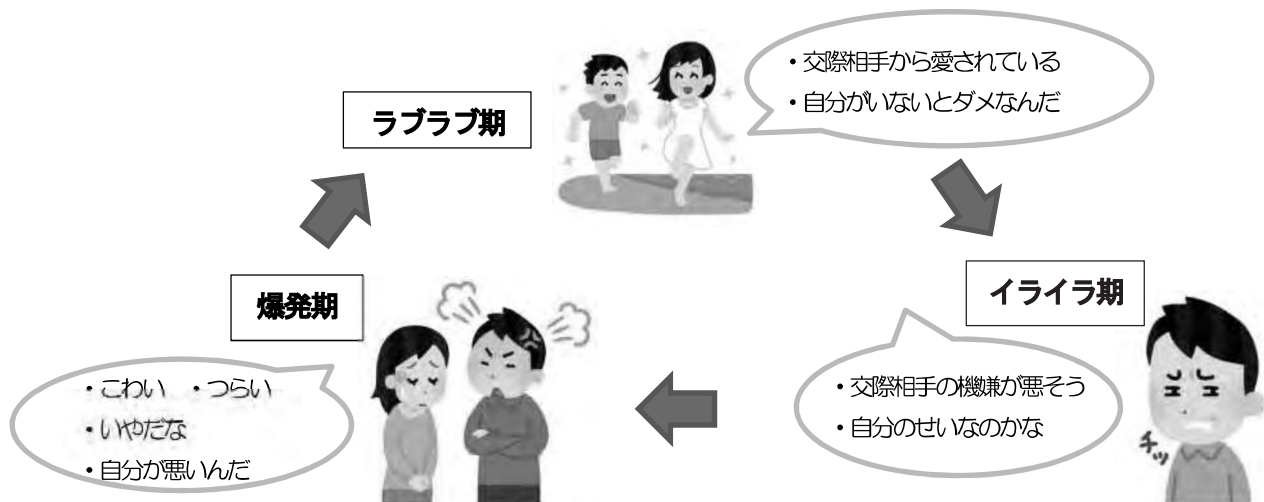
例えば、こんなこと…

- ◆いやなのに体をさわったり、キスしたりされる
- ◆いやなのに裸などを撮影される
- ◆性行為を強要される・避妊に協力してくれない

デートDVのサイクルってなに？

交際相手は暴力をふるった後で「ごめんね。」「二度としないよ。」「大丈夫だった？」とあやまったり、心配してくれたり、優しくしてくれたり…。

普段はこわくないし、優しいときもあるから、わからなくなってしまふことがあります。しかし、デートDVは暴力が繰り返され、ひどくなることが多いと言われています。



2人のよい関係をつくろう！ ～よい関係をつくるヒント～

大切なのは“自分らしさ”

男だから、女だから、先輩だから、後輩だから、嫌われるのがいやだから…こんな考えをしていますが？一番大切なのは“自分らしさ”です。あなたの気持ち、考え、体、生き方を大切にしましょう。

気持ちを伝える工夫

2人の意見が違ってぶつかったとき、いやなことがあったとき、「自分はこう思う」「自分はこう感じる」と、自分を主語にして気持ちを交際相手に伝えてみましょう。交際相手のことを否定せずに、自分の気持ちを少しずつわかってもらうことができそうです。

お互いを認め合う対等な関係

2人のことは、一緒に考え、一緒に決めましょう。お互いの意見を尊重し、一緒にいるときも、離れているときも、自分のことも、相手のことも大切にできる関係をつくりましょう。

DVにあってしまったら・・・

暴力を受けるのは、あなたが悪いからではありません。「自分が悪いのかも…」と自分を責めたりしないでください。どんな理由があっても、暴力を受けてよい人はいません。

女性の約5人に1人が、交際相手からデートDVの被害を受けていると言われています。1人で悩まないで、信用できる人に相談すること、「助けて！」とSOSを出すことが大切です。

もし、親しい人に相談しにくかったら、相談してもダメだったら、専門の窓口にご相談してみましょう。あなたのことやあなたが相談したこと、秘密は守ってくれます。

<参考資料など>

「デートDVって？」 内閣府男女共同参画局

「デートDV～あなたの近くにある暴力～」 陸前高田市民生部社会福祉課家庭相談室

「超カンタン デートDVの基礎知識」 かなテラス（神奈川県立かながわ男女共同参画センター）

4

障がい者の人権／発達障がい

「いろいろな人の感じ方や気持ちを理解しよう（感覚の過敏）」

1 対象

小学校4年生～6年生

2 ねらい

感覚は人それぞれ異なるものであることを理解し、誰でも同じように快適に過ごすことのできるクラスづくりについて考える。

3 準備するもの

- テレビ（NHK for School の番組が視聴できる環境）
- ワークシート

4 解説

NHK の番組の視聴をもとに、発達障がいなどによる感覚過敏（知覚過敏、聴覚、嗅覚、触覚等の過敏）をもつ児童について理解し、感覚過敏の児童が何に困っているのか、どうしたらその子も含めたみんなが快適に過ごすことができるクラスづくりができるのかについて考えさせる活動を行う。

発達障がいのある子どもたちの多くには、感覚が過敏すぎたり、鈍すぎたりして人と違う感じ方をする「感覚過敏」が見られる。刺激は、味覚・触覚・嗅覚・視覚・聴覚などあらゆる感覚領域に対して起こり、その症状や度合いは人によって様々ある。

光に対して過敏なために教室の小さな画びょうが、キラキラ光って見えたり、マカロニサラダを食べると、まるで砂を食べているようなジャリジャリと嫌な感じがしたり、掃除機の音が爆音のように頭に鳴り響き、耳を塞がないと怖くてその場にいられなかったりする場合もある。感覚過敏は、特定の人にだけ当てはまる特徴ではなく、誰もが様々な特徴や感じ方の違いを持っており、人によって感じ方が違うことについて理解させることが大切である。

5 進め方（展開例） 45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（8分）</p> <p>「好きな食べ物・苦手な食べ物」</p> <p>①「食べ物を食べる時に、どこで（何で）、おいしさを感じるか」について話し合う。</p> <p>例：「舌（味）」「口（食べた感じ）」「鼻（におい）」「目（見た目）」「耳（食べたときの音）」など</p> <p>②グループで話し合った内容を全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを簡単に説明する。 〔P4「学習を進めるにあたって」の内容〕を生徒に伝える。 ・4人程度のグループで行う。 ・ものを食べる時には、五感（味覚・触覚・嗅覚・視覚・聴覚）を使っていること、誰もが感覚を持っており、その感じ方は異なっていることを伝える。 	
展開 30分	<p>◆アクティビティ（30分）</p> <p>①「NHK for School 「u&i」 第2回「授業に集中したいのに…」を視聴する。（10分間）</p> <p>②ワークシートに感想を書く。</p> <p>③何人かが感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する。 ・グループで感想を交流させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
<p>◆人の感じ方は様々で、受け取っている情報はみな違うことを知る。</p>			

	<p>④動画の内容と似たようなことを感じたことはないかワークシートに書く。</p> <p>⑤どんな人でも過ごしやすいクラスを作るためには何ができるか話し合い、ワークシートに書く。</p> <p>⑥各グループで出した意見について発表する。</p> <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> • その人に何に困っているのか聞いてみる。 • 人はいろいろな感じ方が違うことをわかることが大事。 • みんなと違うことが変じゃなくて、違うことが当たり前だから、馬鹿にしないで認め合えるクラスにする。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> • 他人に知られたくない児童には無理に書かなくてよいことを伝えておく。 • 自分のことを語りたい児童がいれば、その経験を語らせてもよい。 • 「周囲の音が大きく聞こえてしまい、会話や授業に集中できない」などの具体的な例をもとに話し合わせ、対策を考えさせてもよい。 • 番組で学んだことを自分たちのクラスに活かさないか考えさせる。 	
まとめ 5分	<p>◆まとめ（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> • まとめ話を聞く。 <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> • 世の中にはいろいろな感じ方をする人がおり、自分が「当たり前」と感じているものが、すべての人と同じではないことに気づく。 • 相手の気持ちに寄り添い、どのように関わることができるかを考えることは一人ひとりの違いを理解し、認め合う関係をつくることへとつながる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> • ワークシートに振り返りを書く。 		

<参考資料など>

「授業に集中したいのに…」 NHK for School 「u&i」第2回

(http://www.nhk.or.jp/tokushi/ui/?das_id=D0005190171_00000)

「～授業で使える～福祉教育プログラム集【障害編】」

千葉県社会福祉協議会、千葉県福祉教育推進連絡会議

いろいろな人の感じ方や気持ち^{かい}を理解しよう

()年()組()番 名前_____

- 1 番組を見て思ったことを書きましょう。

- 2 番組の内容と似た^{よう}に似たようなことを感じたことはないでしょうか。

- 3 どんな人でも過^すごしやすいクラスを作るためのアイデアを出してみましょう。

- 4 今日の授^{じゅ}業をとおして考えたことや、気づいたことを書きましょう。

5

外国籍県民の人権

どんなことができるかな

1 対象

小学校4年生～6年生、中学生

2 ねらい

- ・日常の学校生活における自分自身のあたり前の感覚を見つめなおし、一人ひとりに様々な文化とのつながりがあることに気づく。
- ・外国につながるのがある友だちの気持ちを想像し、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする気持ちを養う。

3 準備するもの

○ワークシート

4 解説

平成31年1月1日現在、神奈川県における住民基本台帳上の外国人数は212,567人で国・地域数は174か国となっており、その数、国・地域数ともに年々増加傾向にある。外国籍県民が増加する中で、多様な文化や民族の違いを理解し、認め合うことのできる人権感覚を児童・生徒に育成することが大切である。

このワークでは、国別外国人数上位（中国：1位、韓国：2位、ブラジル：5位、ペルー：7位）の国の学校の様子を参考にしながら、自分自身のあたり前の感覚を見つめなおし、異なる文化とのつながりがある新しい友だちと、どう関わるとよいかを考えてもらう。外国につながるのがある友だちだけではなく、すべての人に文化とのつながりや生活環境などの違いがあることを発展的に扱うこともできる。

5 進め方（展開例） 45分（中学校50分）

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 8分 （中学校10分）	<p>◆学習の確認 2分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（6分） （中学校8分） 「いろんな学校」</p> <p>①4つの説明文を読み、自分の学校と様子が異なる部分を確認する。併せて4つの国の位置を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを簡単に説明する。 〔P4「学習を進めるにあたって」の内容〕を生徒に伝える。 ・ワークシート1を配付する。 ・児童・生徒のつぶやきや発言を聞き取りながら、展開との関わりが深い以下の観点で、興味・関心に応じて確認していく。教育制度は詳しく扱わなくてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・季節（長期休業期間や入学時期を含む） ・給食 ・休み時間 ・下校時刻 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1

	<p>②どの国の学校生活の様子を説明したものか予想し、答えに○をつける。</p> <p>③ペアで○をつけた答えを確認する。</p> <p>④答え合わせをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正答にこだわらず、国や文化によって様々な違いがあることをとらえられるようにする。 <p>【答え】 A…韓国、B…ブラジル、C…中国、D…ペルー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節や長期休業の名称を手がかりとしながら答え合わせをしていくとよい。 	
<p>・国や文化によって学校生活に様々な違いがあることを知る。</p>			
<p style="text-align: center;">展開</p> <p style="text-align: center;">32分</p> <p style="text-align: center;">(中学校 35分)</p>	<p>◆アクティビティ (32分 (中学校 35分))</p> <p>「新しい友達」</p> <p>①「授業中」、「休み時間」、「給食」それぞれの場面で転校生が不安に感じていることを想像してワークシートに書く。</p> <p>②転校生とどのように関わるとよいか考え、ワークシートに書く。</p> <p>③①、②についてグループで意見交換をする。</p> <p>④全体に発表し共有する。</p> <p>⑤外国からくる転校生の気持ちを想像し、どのように関わることができるか考え、ワークシートに書く。</p> <p>⑥ 全体に発表し共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート2を配付する。 ・想像しやすい場面から考えたり書いたりしてよいことを伝える。 ・児童・生徒の実態に応じて、想像することが困難なことが予想される場合は、自分が県外に転校することになったらどのようなことで不安を感じそうかを想像し、それをもとに考えるよう伝えとよい。 ・机間指導で活動の様子を確認し、書くことができていない児童・生徒には口頭で聞き取るようにする。 ・①で想像したことや考えたことが根拠となるため、①での児童・生徒の活動状況を把握し②に取り組むようにする。 ・3～5人程度のグループで意見交換ができるようにする。 ・県外への転校と外国への転校とではどのような点に違いがあるかを、ワークシート1を参考にしながら全体で確認する。そのうえで、どのようなことに不安を感じているか①の活動を振り返りながら⑤に取り組むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート2
<p style="text-align: center;">まとめ</p> <p style="text-align: center;">5分</p>	<p>◆まとめ (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業をとおして児童・生徒から出された感想をもとに、ねらいを押さえ、まとめる。 	
<p>・日常生活で「あたり前」と感じていることには、文化や生活環境が関係しており、それらの状況は一人ひとり異なっていることに気づく。</p> <p>・相手の気持ちに寄り添い、どのように関わることができるかを考えることは一人ひとりの違いを理解し、認め合う関係をつくることへとつながる。</p>			

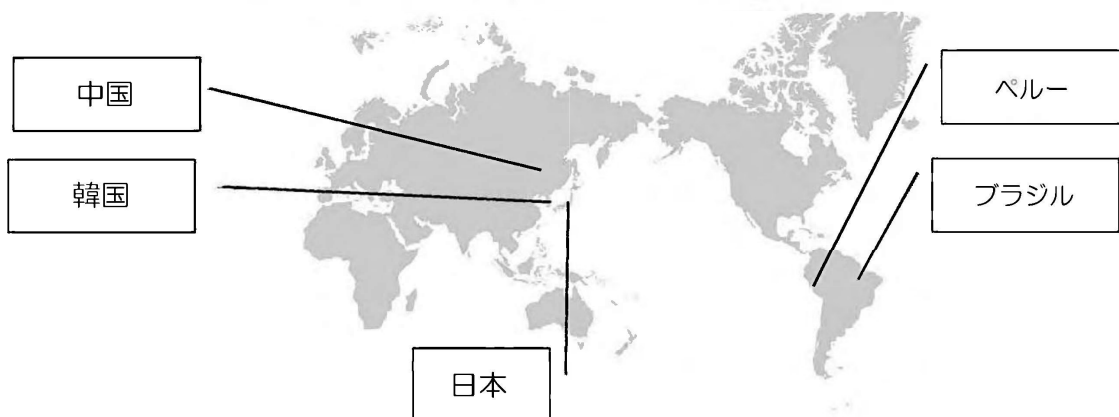
「いろいろな学校」

ワークシート1

()年()組()番 名前_____

次の4つの文は、【中国・韓国・ブラジル・ペルー】いずれかの国の学校の様子を説明したものです。それぞれどの国の様子を説明したものか予想し、国名を○で囲みましょう。

<p>A 【中国・韓国・ブラジル・ペルー】</p> <p>教育制度は日本と同じ、6年、3年、3年制です。でも学期が始まるのは日本とちがって3月から翌年の2月と、1カ月ずれています。そのうち12月末から2月までに長い冬休みがあります。夏休みは7月中旬から8月中旬までのおよそ1カ月です。朝は8時ごろに登校して、7時限目が終わる午後4時ごろまで授業を受けます。学校給食の基本的なメニューは、ご飯にしる物、キムチと数種類のおかずで、くぼみのあるステンレス製のトレイに盛ります。</p>	<p>B 【中国・韓国・ブラジル・ペルー】</p> <p>教育制度は、日本の小学校と中学校にあたる「基礎教育」が9年間、高校にあたる「中等教育」が3年間あります。授業は平日の半日だけ。午前の部か午後の部かを選ぶことができます。夜の部がある3部制の学校もあります。12月～1月が夏休み。新学期は2月からです。給食はフエイジョン（豆のにこみ料理）とごはん、あるいはサンドイッチといった献立が中心です。サッカーやカポエイラ（格とう技）、ダンスなどさまざまなクラブ活動を行っている学校もあります。</p>
<p>C 【中国・韓国・ブラジル・ペルー】</p> <p>教育制度は日本と同じ、6年、3年、3年制です。小学と初級中学の9年間は義務教育です。入学は9月で、1～2月に4週間の冬休み、7～8月に7週間の夏休みがあります。この国では、昼食を食べた後、昼寝を30分ほどします。ゆっくり休んで午後にも元気に勉強できるようにしているのです。多くの学校には食堂があり、生徒は食べたいものを自分で選びます。この国では前菜以外、冷たい食べ物を食べる習慣がないので、日本のようなお弁当は持っていきません。</p>	<p>D 【中国・韓国・ブラジル・ペルー】</p> <p>教育制度は小学校6年間、中等教育5年間、大学5年間で、義務教育は11年間です。2学期制で、1学期が3～7月、2学期が8～12月。クリスマスから2月末までの2カ月以上が長い夏休みです。制服があり、スカートのたけやかみ型、遅刻には厳しいそうです。特定の学校では給食を出して、子どもたちが学校に行きやすくしています。学校は朝8時から午後1時までなので、給食が出るのはなんと朝！朝食が出るんです。一部ですが昼食も出る学校もありますよ。</p>



新しい友だち

()年()組()番 名前_____

- ① 県外から転校生が来ることになりました。担任^{たんにん}の先生の話によると、その転校生は転校することにとっても不安^ふを感じているそうです。どのようなことを不安^ふに感じていると思いますか。次の3つの場面それぞれで考えましょう。

じゅ 授 業 中	
休み時間	
きゅう 給 食	

- ② 不安^ふに感じている転校生とどのように関わるとよいか考えましょう。

- ③ 外国から転校生が来ることになりました。転校生の気持ちを想像^{そう}し、どのように関わることができるか考えましょう。

県内の公立学校には、多くの外国籍の児童・生徒が在籍しています。また、それ以外にも、言語・文化などに様々な背景をもった児童・生徒、例えば日本国籍であっても母語が日本語ではないなどの児童・生徒が在籍しています。神奈川県では、そのような背景のある児童・生徒を総じて「外国につながる児童・生徒」と表現しています。外国につながる児童・生徒が、それを理由にいじめられるといった直接的な差別のほか、外国籍であることが理由で希望の会社に入らなかったり、住まいを探すときに断られたりするなど、外国人に対する差別の実態があります。

学校においては、国籍・文化・民族等の違いによる差別や偏見をなくすためにも、すべての児童・生徒が異なる文化や習慣等について理解し、互いに違いを認め合い、共生社会を実現する教育の取組を進める必要があります。

なお、国は平成28年6月3日、外国人に対する差別的言動の解消を目的として「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」を施行し、本邦外出身者に対する不当な差別的言動を解消するための教育活動等について規定しています。

法務省人権擁護局 http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00108.html



ヘイトスピーチQ&A

出典：「私たちの身近にあるヘイトスピーチ」法務省人権擁護局・全国人権擁護委員会連合より

Q1 ヘイトスピーチって何？

A1 ヘイトスピーチに明確な定義はありませんが、最近、デモやインターネット上で、特定の国の出身の人々を、その出身であることのみを理由に一方的に我が国の社会から追い出そうとしたり、特定の国の出身の人々に一方的に危害を加えようとする内容の言動が見られ、このような言動が一般にヘイトスピーチと言われています。例えば、特定の国の出身の人々について一律に「日本から叩き出せ」や「殺せ」というものが、ヘイトスピーチに当たると言われています。

Q2 ヘイトスピーチの何が問題なの？

A2 このような言動は、言われている人々の心を傷つけたり、そのような人々に対する差別を生じさせるおそれがあり、決してあってはならないものです

Q3 ヘイトスピーチをなくすために、私たちにできることは？

A3 まずは、こうしたヘイトスピーチをなくしていく必要性について、私たちの理解を深めることが重要です。このことは、平成28年にできた、いわゆるヘイトスピーチ解消法（※）にも、基本理念として書かれています。

※「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」

◇本名が名乗れる教育環境づくり

外国につながるのある児童・生徒が、自らのアイデンティティを再確認し、自尊感情をもって学校生活を有意義に過ごすためにも本名を名乗ることのできる教育環境をつくることが求められています。本名が名乗れない理由は、当然のことながら、本名を名乗ると差別を受ける、あるいは差別を受けそうだから、ということです。もちろん、本名を名乗っても差別を受けることなく生活している児童・生徒もいます。ただ、周囲の人から見て差別を受けていないように見えても、本名での生活には様々なストレスや不便が積みまとうと言われてしています。

名前を呼ばただけでじろじろ見られたり、何度も名前を聞き返されたり、「国籍はどこでいつ日本に来たのか。」など、興味本位でいろいろな質問を受けることもあります。右から左に横書きをする言語もありますが、日本の申請用紙はすべて左からの横書きであり、中には縦書きの書類もあります。

このような中で本名を貫くためには、様々な軋轢を乗り越え、相応の労力をかけなければなりません。通称名を使用したほうが、様々な煩わしさから逃れることが多いのかもしれませんが。

しかし、通称名はあくまでも通称名です。ある程度面倒な作業からは逃れられますが、逆に、今度は、通称名であることや複数の名前があることについて説明しなければならなくなります。結局、本名を隠していることへの罪悪感や、通称名使用の煩わしさから、思い切って本名を使用するようになる人もいます。

(参考) 川崎市 差別のない人権尊重のまちづくり条例 (令和元年12月12日公布)

前文

川崎市は、日本国憲法及び日本国が締結した人権に関する諸条約の理念を踏まえ、あらゆる不当な差別の解消に向けて、一人ひとりの人間の尊厳を最優先する人権施策を、平等と多様性を尊重し、着実に実施してきた。

しかしながら、今なお、不当な差別は依然として存在し、本邦外出身者に対する不当な差別的言動、インターネットを利用した人権侵害などの人権課題も生じている。

このような状況を踏まえ、市、市民及び事業者が協力して、不当な差別の解消と人権課題の解決に向けて、人権尊重の理念の普及をより一層推進していく必要がある。

ここに、川崎市は、全ての市民が不当な差別を受けることなく、個人として尊重され、生き生きと暮らすことができる人権尊重のまちづくりを推進していくため、この条例を制定する。

第1条 (目的)

この条例は不当な差別のない人権尊重のまちづくりに関し、市、市民及び事業者の責務を明らかにするとともに、人権に関する施策の基本となる事項及び本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組に関する事項を定めることにより、人権尊重のまちづくりを総合的かつ計画的に推進し、もって人権を尊重し、共に生きる社会の実現に資することを目的とする。